

学生相撲競技者におけるプロ入門意欲に関する研究

～全国高校相撲選手権大会出場選手に注目して～

A study of the factor affecting a motivation for professional sumo

～Focusing on the national high school sumo championships competitor～

1K07B025-1 植田 力康

指導教員 主査 木村 和彦 先生 副査 小野沢 弘史 先生

【諸言】

相撲は日本固有の宗教である神道に基づいた神事であり、日本国内各地で「祭り」として神社などの場所で行われる「奉納相撲」が地域住民により、現在も行われている。健康な体格と力に恵まれた男性が神前にてその力を捧げ、神々に敬意と感謝を示す行為である。そのため礼儀作法が非常に重視されており、実際の試合にも「礼に始まり礼に終わる」という作法が用いられている。相撲の定義は、「まわし」を締めただけの裸体の2人の競技者が素手で土俵上において勝負を争い、互いに相手を倒し合うか、土俵の外に出し合う格技の一種ということになる。現在の相撲は日本の国技と言われ、日本独自の格闘技とされているが、世界的視点から見ると、韓国の「シルム」トルコの「ヤールギュレシ」、モンゴルの「ブフ」、中国の「シュアイジャオ」など相撲の形態に似たスポーツが盛んに行われている。

日本の相撲には大相撲とアマチュア相撲の2種類がある。大相撲とは職業的な最高位の力士たちによって商業的に行われる相撲興行及びその母体となる力士・関係者の集団・社会を指す。現在では日本相撲協会が主催するプロの相撲興行をいう。アマチュア相撲は、日本相撲協会に所属するプロの力士ではない、主に日本相撲連盟が試合等を開催し、その試合に参加するような一般選手が行う相撲競技のことをいう。おおまかには、小学生から大学生までを対象とする学生相撲や企業によって構成される実業団相撲のことを指す。

【研究の目的】

本研究の目的は、全国高等学校相撲選手権大会に出場している学生相撲競技者に対して学生相撲競技者の大相撲（プロ）への入門意欲と、それに影響を与える要因を明らかにし、現在人気低迷している相撲道発展の手助けになれば良いと考える。

【研究方法】

調査日程：2010年8月2日（月） - 4日（水）美ら島沖縄総体2010 第88回全国高等学校相撲選手権大会（インターハイ）

調査対象：全国高等学校相撲選手権大会に出場している高校

生1年～3年生＊団体戦に登録5人と個人戦出場選手のみ

調査場所：沖縄県うるま市 具志川ドーム

調査方法：質問紙調査

【研究結果と考察】

本研究の結果、全国高校相撲選手権大会に出場する学生相撲競技者の大相撲入門意欲がないと答えた学生相撲競技者は78.4%であり、ほとんどないと言える。入門しないに影響する要因は「他の目標がある」（平均値4.00）ということであり、大相撲は学生相撲競技者が目指す職業ではない傾向があると分かった。それに対して、大相撲入門意欲があると答えた学生相撲競技者は6.3%であり、入門に影響する要因が「相撲が好きだから」（4.71）、「勝利の喜びを味わえる」（4.29）であった。またt検定では、「勝利の喜びを味わえる」、「憧れている力士がいる」、「競技歴」は平均値に差が出ているが、有意差は見られなかった。この分析ではサンプル数が足りなく、統計的な差が思うように出なかったが、平均値でかなりの差が出ている項目が多いので今後サンプル数を増やせば良い結果がでると思う。また「相撲が好きだから」、「卒業後継続」は平均値に差が出ており、有意差は見られた。

【まとめ及び提言】

アマチュア相撲は、現在日本国内の競技人口は減少傾向である。海外では相撲が受け入れられつつあり、世界大会に参加する外国人が増加している現状がある。競技人口を増やすためには、ユニフォームの改良も必要であるのだが、何よりも相撲の魅力を伝える指導者が少ないと思う。平成24年に始まる中学校武道必修化には相撲も含まれているため、相撲の競技人口を増やすチャンスであり、世間に相撲の面白さを広めるチャンスだと筆者は感じている。そのために日本相撲連盟や日本相撲協会など連携を組み、全国の中学校に相撲の指導者の派遣、または日本相撲連盟と日本相撲協会の小学校から大学各世代の試合の開催など、相撲の魅力を伝えていけるような事業が両社の協力があって行われることを期待したい。それによってアマチュア相撲が活性化し、より高く競技力が向上することで大相撲に憧れを抱く学生相撲競技者も増えていくと私は考える。